

平成22年度第1回北九州市立図書館協議会 会議録

1 会議名

平成22年度第1回北九州市立図書館協議会

2 議題

- (1) こどもと母のとしょかんの愛称について
- (2) その他

3 開催日時

平成22年7月27日(火)
14時00分～15時00分

4 開催場所

北九州市立中央図書館内 視聴覚センター第2会議室

5 出席者氏名

(1) 委員(会長他11名、欠席委員5名)

元北九州市立大学基盤教育センター情報教育部門長	棚次 奎介
北九州市学校図書館協議会会長	吉田 幸雄
北九州市私立幼稚園連盟理事	中田 俊澄
北九州市PTA協議会副会長	安永扶由美
北九州市婦人団体協議会理事	岡田 黎子
北九州市AVEの会副会長	長谷川英代
北九州市社会教育委員	服部多恵子
BUCH北九州 絵本とおはなしの会	高井眞紀子
北九州児童文化連盟理事	佐山 幸子
北九州市保育所連盟常任委員	中村 尋子
成人読書会「四季」副会長	高畠登美子
北九州青年会議所	前田 勇人

(2) 事務局(山口中央図書館長他9名)

中央図書館館長	山口 保夫
中央図書館副館長	坂本 敏彦
中央図書館庶務課長	紫垣 教幸

中央図書館奉仕課長	小石原善徳
中央図書館庶務課庶務係長	河野 吉彦
中央図書館庶務課資料係長	久保 博孝
中央図書館奉仕課奉仕係長	岡本 博昭
視聴覚センター館長	西田 英三
中央図書館庶務課庶務係	山本 清貴
教育委員会生涯学習課図書館建設担当係長	徳間 博郎

6 傍聴者

なし

7 会議次第

- (1) 中央図書館長挨拶
- (2) 議事（報告、質疑応答）

8 会議経過（発言内容要旨）

(1) こどもと母のとしょかんの愛称について

(事務局)

こどもと母のとしょかんの設置経緯等説明

- ・設置の経緯、設置状況、北九州市立図書館の体系図、市立図書館配置図、分館の利用状況や蔵書構成など

(委員)

現在の愛称で良いと思います。「こどもと母のとしょかん」と言えば児童書がたくさんあるということがわかると思います。

(委員)

「こどもと母のとしょかん」であれば、母という認識が強くお父さんが入りにくいということですか。

(事務局)

10年前くらいから、市議会などで男女共同参画社会の実現を強く求められるようになりました。「こどもと母のとしょかん」についても、父親や一般の人が利用できないのではないかとか、読み聞かせなど子育ては親子

ですものなので、母親に限定するのはどうかなどの指摘を受けています。

なお、最近建設された新門司分館は「新門司子どもと母のとしょかん」とせず新門司分館とし、曾根分館は、地域の皆さんから愛称を公募して、曾根分館「そねっと」になっています。

(委員)

男女共同参画社会の実現という趣旨はよく理解できますが、出産などは女性にしかできません。子育てにおいても、父親にはできないこともたくさんあると思いますし、母親と過ごすことによって子どもの情緒が安定すると思います。

設立趣旨のように、子どもとお母さんが図書館に行って一緒に読み聞かせなどが行える幼児期の情操教育のための図書館として、ふさわしい愛称と思いますので、替える必要があるのかよくわかりません。

(委員)

本の比率としてはどうなのでしょう。他の分館と比べると児童書が多いのでしょうか。

(事務局)

分館合計で44万8千冊の蔵書があり、そのうち児童書は23万3千冊で、約52.1%の割合となっております。一番割合が低いところは、そねっとで蔵書が約5万冊で、児童書が約2万冊で約40%となっております。

児童書の割合が一番低いところで約4割で、平均すると約5割となっております。ただ、貸出冊数や貸出者数における児童の割合はそれぞれ23%、27.6%となっており、一般の方の利用が多くなっています。

(委員)

各地区館についての児童書の割合はどうなっているのでしょうか。

(事務局)

市立図書館全体で167万4千冊の蔵書があり、そのうち児童書は43万冊で約25.7%、全体の4分の1を占めています。

(委員)

私も「子どもと母のとしょかん」と限定されるとお父さんが連れて行きにくいというのを聞いたことがあります。個人的な意見ですが、母と限定せず

に親子とか、「こどもの」という言葉に置き換えた方が良いと思います。

また、「こどもと母のとしょかん」と言いながらも近くに図書館のない地域では、一般の利用率がかなり高いというのは必要性に迫られているからだと思います。だからといって、「こども」を取って分館するのは反対です。

(委員)

国立こども図書館という名の図書館がありますが、他では「こどもと母のとしょかん」というのはないのでしょうか。

(事務局)

国立こども図書館と広島市立こども図書館があります。ただ、親と子どもが一緒に行き、本と触れ合うことができる図書館で「こどもと母のとしょかん」の名前が付いたものは北九州市以外にはおそらくないと思います。

(委員)

いつも「図書館だより」を見せていただけていますが、みんなの本棚にみんなという言葉が使われています。母の代わりにみんなを使ったらどうでしょうか。

(委員)

子どもを付けなくて、みんなだけで良いのではないですか。

(委員)

子どもと付いているから子づれの母親が行きやすいというイメージがあるので、ぜひそのところは残していただきたいと思います。

(委員)

子どもを図書館に連れて行くのは母に以外では父とか、おじいちゃん、おばあちゃんがいます。それを含めたところで、こどもと大人の図書館になるとセンスがないので、「こどもとみんなのとしょかん」とするか、「そねっと」とか言うように愛称を付けるのではどうでしょうか。

(事務局)

愛称の募集も考えたのですが、全部にあてはまるような愛称はなかなか難しいと考えています。

(委員)

これは今日決めないといけないのでしょうか。

(事務局)

今日は決める必要はありません。みなさんから頂いたご意見を参考にしながら、検討を進めていきたいと思っております。

こどもという言葉が大事にしてほしいという委員みなさまのご意見も承りましたので、今までの「こどもと母のとしょかん」の理念を引きつげるような愛称について検討していきたいと思っております。

(2) その他

(事務局)

市立図書館における「返却フリー事業」の実施について説明。

(委員)

幼稚園・保育所等の団体貸出の本が返却フリーにならないのは、貸出冊数が多いからということですか。

(事務局)

返却フリーはあくまで個人で借りられた方を対象とした制度で、幼稚園・保育所等団体で利用される場合は、借りた図書館で返してもらうようにしています。

(委員)

この制度が導入されると中央図書館で借りた本を自分の近くの図書館でも返していいよということですか。

(事務局)

はい。ただし、市外の図書館から取り寄せて借りた本などは借りた図書館に返却をお願いしています。

(委員)

2つほどお尋ねします。1つは大型絵本の貸し出しですが、例えば勝山分館にはないが、大池分館にはある大型絵本などは、そこに行って借りてくださいということになっているようです。しかも、貸出期間が3日間だけと言

われたと聞きましたので、ふつうの本と同じ取り扱いをしてほしいと思います。

もう1つはインターネット検索です。図書館の在庫状況まで検索できて、大変便利になりましたが、在庫の図書を借りようと図書館へ行ってみるとなかったというような例があったと聞いています。

自分が検索してから図書館へ行くまでの間で、貸し出されることもあると思いますが、タイムラグがなくなるよう改善してもらいたいと思います。

(事務局)

大型絵本の貸出については、幼稚園等のイベントで使用されることが多く、貸出日を事前に決めて予約を受けることがあります。その貸出日までに返却していただくという条件で、短期間の貸出を行っていると聞いたことがあります。ご指摘の例も、このように貸出予約が入っていたのではないかと思われるますが、確認をしたいと思います。

次に、インターネット検索の件ですが、業務用端末にはタイムラグはありませんが、インターネットの蔵書データは1日1回の更新となっています。

このため、タイムラグがありますが、サーバーの容量等の技術的な問題もありますので、早急な対応については難しいと考えております。

平成24年度に現行システムの更新を予定しておりますので、そのタイミングで改善できればと思っています。